



今月の表紙は、須美区の大鳳製作の様子です。町の五大祭りの一つであることうた風揚げまつり。今年は1月8日(日)に菱池で開催されます。大きな風の中に製作者の細やかなこだわりと技術が詰まっています。迫力ある風が大空を優雅に舞う姿、ぜひ会場にお越しになってお楽しみください。

## 今月の表紙

# みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課情報G  
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111(内線344)  
FAX63-5139

## ことうたの民話

### 「六栗の白ひげさん」 六栗

六栗の中屋敷に白ひげ社のあとがあります。

ある年のこと。昨日も雨、今日も雨と、それはそれはよく雨が降り続き、田も畑も水びたしになってしまいました。「あぁせっかく田植えをしたのに、これでは米が取れなくなってしまう。」と人々は一日も早く雨が上がるのを待っていました。うわさによると菱池の向こうの矢作川の水かさ、どんどん高くなっているようです。

とつぜん、ジャンジャンと半しょうが鳴り、「大変だ。矢作川のてい防が切れたぞ。どんどん菱池に流れ込んでぞ。一刻も早く逃げろ。高いところに避難しろ。」という火の見やぐらの人の叫び声がありました。村の人たちは、急いで先を争うようにして身一つで高いところへ逃げました。まんじりともせずその夜をすごしました。

ついうとうとしていた村の人の中に、ふしぎな夢をみた人がいました。「おや、白ひげの人が立っ

ておられるぞ。なんだこのじいさん、雨にぬれてびしょりではないか。」明るく朝、その人は夢のことをみんなに話しました。ふしぎに思った村の人は引きだした水の中を中屋敷までやってきました。すると、茶色ににごった水の中にそこだけきれいに澄んでいるところがあり、見れば水底からこんこんときれいな水がわき出しているではありませんか。そしてこの水は帯のようになって流れていました。その中を木で作った神様がこちらに流れて来られました。白い着物に白いひげ、夕べのふしぎな夢に出てきた人と同じです。村の人はすぐに神様を拾い上げ、そして、中屋敷の地にお社を建ててこの神様を祭りました。

こうして祭られるようになった白ひげ社です。雨乞いの神様として、日照りが続くと村の人々は白ひげ社に集まり、心から祈りを捧げると必ず雨が降ったとのことでした。(ことうたの民話要約)



(書道) 山下 洋子 さん

## みんなの作品展!

平成23年度幸田文化振興協会文化祭(書道・表装)からのセレクトです。



(表装) 吉見 紀元 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課情報Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで。)

## 田川町の方言

「りん」

謹賀新年。正月といえは、やっぱり雑煮ですね。でも…

「ゴッホッ…。死ぬかともったがー」  
「ほれみりん。ぼつぼつ食べんもんだん」

(前略)  
「それみなさい。ゆっくり食べないからや」  
という意味です。

「じゃんだりん」のトリを務める「りん」、動詞の連用形に付きますが、四段活用(共通語では五段活用)では、「行きりん」とか「待ちりん」とはいわず、「行きん」、「待ちん」といいます。また、例文の「ほれみりん」を「ほれみん」ともいうことから「りん」ではなく、「ん」が本来の形だとわかります。

この「ん」、実は「んさい」の「な」が転じたものなのです。「なさい」は、「な(為)す」の尊敬語「なさる」の命令形「なされ」の転とも、「なさります」の命令形「なさりませ」の転ともいわれます。このことは、この地方の「おいでんを、おいでんさい」とか「おいでなさんし」とかいう地方があることでも証明できます。

(文・ことうた)



青春トークリレー  
第226号

しみず かなえ  
清水 華苗 さん

大草区在住 25歳 理学療法士  
身長 158cm A型  
好きなタイプ 笑顔がステキな人  
好きな芸能人 安室奈美恵

私は、生まれも育ちも幸田町で、ずっとこの町に住んでいます。

この町には大事な友達がいます。私が恋愛や仕事で落ち込んでいる時には励ましてくれるし、悩んでいるときには、親身になって話を聞いてくれます。幼いころから一緒に成長してきた仲間だからこそ共感する部分が多く、心から安らぐことのできる仲間だと感じています。みんなは私にとって家族のような存在で、一生の宝物です。

これから先、それぞれの道を歩み出し、離れてしまったとしても、私たちの関係がずっと続くことを願っています。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。  
希望者は企画政策課まで。



大草保育園は、保護者のご厚意で今年もイチゴの苗をいただきました。職員室前にプランターを置き簡単なハウスを作り、イチゴを育てています。月日がたち、イチゴが1つ2つ赤く彩り始めると、早速「先生イチゴが赤くなってきたよ！」と報告にきました。そしてすかさず食べたそうな顔をして「食べていい？」と…。赤く実るのを心待ちにしていたの

わんぱくばより  
「某月某日  
大草保育園」

おいしーよ

ですね。そこまで待つていたのならすべし「うーよー」と返事がしたかったのですが、順番に食するというのが、順番に食するということ。最初は年長さんからね。「もっと待つように声を掛けました。」



▲イチゴだいすき♪

始めに年長さんが食べました。子どもたちは「おいしい」「あまい」と言っておうれしそうに食べていました。身近な場所で育て実ったイチゴは何かがちがいます。格別だったようです。『食育』ってこのような経験の積み重ねでいいのだなと改めて確認できました。これからどんどん実っていくイチゴを子どもたち全

員がおいしそうに食べてくれることと信じています。この秋にはほかに大根・ブロッコリー・ラディッシュ・大豆などを畑で育て、収穫するとすぐに調理して食べています。大人や友だちと一緒に、いろいろな食材を楽しく食べるのができる子になっ

てほしいと願っています。▼新年あけましておめでとございます。昨年は災害も多く、自然の驚異を改めて思い知った1年でした。でもその中で、人と人との絆の大切さ、コミュニケーションの大切さが再認識された1年でした。日本が復興へと向かう、とても大切な1年が始まります。明るいニュースが待ち焦がれる中で、僕が心打たれた作品がありました。JR九州新幹線全線開通のCMです。実際の放映は東日本大震災の影響で自粛されましたが、ロケで広がり、ついにはこの映像が総務大臣賞を受賞したとのこと。パソコンをお持ちの人はYoutubeというサイトで「九州新幹線」と検索すれば出てきますので、ぜひご覧ください☆日本には明るい未来が待っている！そして個人的なことも明るいニュースを一つ。ジャジャーン☆大吉です☆



編集者の  
ちよと  
わんぱく